

# 空調タイムス

THE AIR-CONDITIONING TIMES

(昭和35年2月22日第三種郵便物認可) = 購読料—カ年15,000円 発行日毎週水曜日—

ダイナエアー

## 「液式調湿装置」の独自性で

## 差別化対策、臨めるシステム



宮内 彦夫社長

上層部が蒸し暑くなるのが空気で工事の省力化を推進す  
緩和される。大規模空間ではあることができる。加えて低温  
給気分散のための大きなターニ（六〇〇度C以下）で駆動でき  
シャルコストを削減し、送風するため多彩な排熱利用が可能  
のための動力ランニングが削で、溶液濃度差を使った二時  
減可能。  
蓄熱も可能といった特性を活  
こうした調湿空調は環境改  
善面を始めとし多くの改善効果  
果が期待されるものの、これ  
までの従来型、デシカント機  
は特殊な用途の場合を除き一  
般空調環境においてイニシャ  
ル、ランニングコスト、設置  
スペース、施工において問題  
が多く普及が進まない実情が  
あったとしている。

起業より四年、独自の調  
湿技術”を背景に好調に実績  
を積み増しているのが、独  
自の液式で除湿・加湿を実現  
させ快適環境を創造するダイ  
ナエアー（社長＝宮内彦夫氏、  
本社・東京都千代田区神田小  
川町二一―一―二）だ。

ダイナエアーではこうした  
市場環境に対し、エネルギー  
の有効利用として温度と湿度  
を分離処理し、これまでの対  
外気温度差を最小に留め在来  
空調機の負荷を大幅に減少さ  
せた。これに使用する液式外  
調湿装置が夏は除湿冷風、  
冬は加湿温風を供給するため  
室内の冷暖房設備は補助的に  
供されることとなり、通年で  
直近の導入実績としては、  
〇七年で全国四ヶ所の老健施  
設やスーパーなどへ実績が出  
ており、なかでも新潟県、上  
越市の特別養護老人ホーム  
「悠久の里」では全七〇床を  
越えるオール・ユニットケ  
型の施設で従来の空調システ  
ム（セントラル式空調）の改  
修にあたり、同システムを採  
用した。外気を塩水で洗った  
上で乾燥、または加湿させ室  
内に供給する仕組み。空気中  
に含まれる水分の三割程度を  
夏場は除湿、冬場は四割程度  
を加湿に転換し運転。体感温  
度の一定化を実現させた。こ  
れにより年間のランニングコ  
ストで五百万円ほどの削減に  
成功している。さらに室内の  
湿度が安定していることから  
空気感染などの障害も無く、  
インフルエンザの子助へも繋  
がったという。この導入によ  
ってさらに同地区の老健施設  
での採用が〇八年決定してい  
る。

同社は先頃、処理・再生一  
体型の三〇〇㎡/h級の新型  
機をラインナップに加え、こ  
れにより中・大型、小型物件  
への対応力を強化。今後の需  
要確保に努めていく。ダイナ  
エアーが展開する調湿空調  
とは液式の外調湿機を使用し  
ての空調コントロールで除湿・  
冷却・加湿・加熱・除菌・殺  
菌・消臭の七機能をもち、効  
率を徹底して改善した装置。

はランニングコストもまた削  
減が可能となった。溶液の再  
り、送風量を大きく取り、且  
つ偏在防止のため多くの給気  
口を必要としてきた。同社の  
調湿空調は対流に依存せず、  
その分圧差はバルトンの分圧  
の法則に従い、数一〇〇Paさ  
と大きく、大型ファンを多数  
並べ水蒸気を拡散させている  
のと同様の効果で室内空間の  
隅々まで絶対湿度をほぼ均  
とする。また、室内の気温も  
水分移動に引きずられ移動す  
るため、室内気温の偏在化を  
解消し、足元だけが冷えたり、  
どへの配慮も不要であり、大

はランニングコストもまた削  
減が可能となった。溶液の再  
り、送風量を大きく取り、且  
つ偏在防止のため多くの給気  
口を必要としてきた。同社の  
調湿空調は対流に依存せず、  
その分圧差はバルトンの分圧  
の法則に従い、数一〇〇Paさ  
と大きく、大型ファンを多数  
並べ水蒸気を拡散させている  
のと同様の効果で室内空間の  
隅々まで絶対湿度をほぼ均  
とする。また、室内の気温も  
水分移動に引きずられ移動す  
るため、室内気温の偏在化を  
解消し、足元だけが冷えたり、  
どへの配慮も不要であり、大

はランニングコストもまた削  
減が可能となった。溶液の再  
り、送風量を大きく取り、且  
つ偏在防止のため多くの給気  
口を必要としてきた。同社の  
調湿空調は対流に依存せず、  
その分圧差はバルトンの分圧  
の法則に従い、数一〇〇Paさ  
と大きく、大型ファンを多数  
並べ水蒸気を拡散させている  
のと同様の効果で室内空間の  
隅々まで絶対湿度をほぼ均  
とする。また、室内の気温も  
水分移動に引きずられ移動す  
るため、室内気温の偏在化を  
解消し、足元だけが冷えたり、  
どへの配慮も不要であり、大